

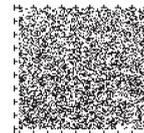
第48号

m

o

i

モイ!



● 今号のトピック ●

■ 要援護者の理解ワークショップ & 福祉避難所宿泊体験レポート

3/11(土)に、福祉避難所宿泊体験を行いました。

前半は、疑似体験を中心としたワークショップを行い、夕方からの宿泊体験では、運営の呼びかけ・マッサージ・救援物資調達など、新たな取り組みをしました。

■ ワークショップアンケート結果

今回の体験を通して、参加者の皆さんが感じたこと、気付いたことを挙げていただきました。

■ 避難所宿泊体験まとめ

福祉避難所を体験しよう

第2回 福祉避難所宿泊体験 レポート

要援護者の理解ワークショップ及び福祉避難所宿泊体験

『障害のある人の避難所体験』

新宿区立障害者福祉センターは新宿区地域防災計画において、被災時は二次避難所として運用されることになっています。人員も資源も限られている中、実際の運用はどのように行われることになるのか、まだまだ、解らない点が数多く残されています。次にまたいつ起こるか分からない震災に備えて、もしも避難所に泊まることになったらどんなことになるか、という点において、本企画は、災害時を模して新宿区立障害者福祉センターを夜間開放し、実際に避難所の一晩を体験していただくものです。

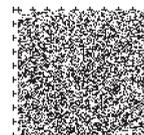
『実施のねらい』

- ①障害のある方やご家族に、避難所の生活の困難さ、実態を体験していただくこと。
- ②その他の参加者に要援護者の困難さ、被災時の困難を知っていただくこと。
- ③二次避難所運営のヒントを得ること。

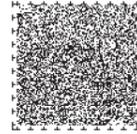
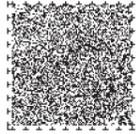
『当日の実施状況』

日時 平成29年3月11日(土) 午後1時 ~ 翌3月12日(日) 午前9時

参加者 ワークショップ84名、宿泊体験35名(ともに職員含む)



福祉避難所宿泊体験レポート



12:00 受付開始

挨拶
オリエンテーション

いよいよ
始まります



13:00

要援護者の理解ワークショップ

提供：
・新宿区視覚障害者福祉協会
・新宿区肢体不自由児者父母の会
・新宿区聴覚障害者協会
・新宿区手をつなく親の会
・新宿ふれあいの会

(50音順)



知的障害
疑似体験

風景画像をみて、参加者個々で認識に差があることや、細かな銘柄から商品当てるワークでは、情報を与えられるか否かで、その認識に差が出てくるなど、知的障害特有の捉え方、心理等を体験しました。

15:00～ 各障害体験講座

ワークショップに参加された方の感想は4ページへ！

身振りや
やってみよう！

避難所にて手話が使えない状態で、どうやって伝えるかを体験。口ぶりを大きくジェスチャーを交えることで、理解が可能なことを発見しました。

伝えるのは
難しい！

見るのと
やるのでは大違い！

見えない人の
見え方？体験

アイマスクを付け、白杖を使いコースを往復し、障害物を避けて通ります。見えない怖さを体験しました。



言語障害
体験

舌に手を入れて、発声の不自在さを体感したり、言語障害の当事者の方と、特殊な機材を使っての会話体験をしました。



各障害分野にて、疑似体験をはじめとしたブースを設け、20分をひとコマとして、順番に回ります。

避難所体験が
教えてくれたこと

平成27年8月に実施した第1回めの福祉避難所体験企画から得た、気づきのまとめ報告をしました。



車いす体験

被災時の路面状況を想定し、車いすの安全な運び方を学びます。段差の乗り越えや、車いすを押す際には注意深さが必要です。



当事者の方の
気持ちが
わかりました！

17:00

宿泊体験開始

オリエンテーション

今回はココが
違います！

18:00

食事準備・配給

アルファ米とレトルトのおかずを準備します。一般参加者・保護者の方にもご協力頂き、運営のお手伝いの呼び掛けをしています。グループごとや、動ける方が代表して受け取るようにしました。

みんなで
運営！



マッサージ

避難所での新たな役割として、視覚障害の方によるマッサージを試行しました。



19:00

夕食・参加者紹介

様々な立場の方が集まり、交流の場となりました。



救援物資
調達

企業のご協力により、救援物資を取りに行くシミュレーションをしました。



20:00

寝具準備・配給

寝具の展開、休養スペースを設営します。居住スペースを男女ごとや、障害に応じて分ける配慮をしました。



多少なりとも休養しやすくなるよう、下に段ボールと、エアマットの上に毛布を敷いています。



21:00

就寝



寒さが
身に染みしました。

避難者
台帳の
作成

全員分を作成。要援護者情報を管理します。



7:00

起床・朝食



振り返り
の会

反省や意見を出し合いました。今後に活かしていきます。



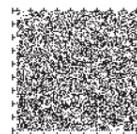
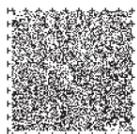
8:00

振り返りの会

良い体験が
できました。

9:00

解散



ワークショップ アンケート結果

今回いただきましたワークショップへのアンケートの一部抜粋になります（順不同・原文ママ）
多数のご参加、ありがとうございました！

第1部

知的・自閉症

- 疑似体験を通して、知的障害・自閉症の特性について具体的な体感的に理解できたのでは、と思います。今後の指導・支援にいかしていけたらと思います。ありがとうございました。
- とても分かりやすく障害について知ることができました。小中学校でも必修で体験する時間を用意した方が良いと思いました。
- 肢体・視覚・聴覚はよくあるが、知的障害の疑似体験はとても珍しい！！常々どうということなのか実感として知りたいと思っていたので貴重な機会でした。ありがとうございました。
- 情報伝達のむずかしさを体験し、勉強になりました。普段なにげなく行動している事が、知的障害の人にとって大変であるかという事がわかりました。
- 4つの体験を通し、知的障害、発達障害の方への理解が（少しだけ）できたような気がしました。



続・第1部 各障害体験講座

見えない人の見え方体験

- 平衡感覚、遠近感など、見えないことに付随する困難を実際に感じられてよかったです。
- ほんの数分の目かくしなのに、とても恐くてあきらかに上手く歩けなかった。これから駅などでお見かけしたら声をかけたいと思いました。
- 駅で「目の不自由な方に手助けを」アナウンスをよく聞かすが、具体的にどうすればいいのかわからなかった。でも直接伺うことができてよかったです。
- アイマスクをして歩行しましたが、障害物がダンボールでやわらかかったので、実際の障害物ではケガをしようかもしれないと思いました。
- シュミレーションスコープ体験が良かったです。夜の宿泊訓練の時にシュミレーションスコープでどのように見えるのか、という体験もできるといいかなと思いました。



身振りでやってみよう！

- 聴覚障害は見た目で見えないということ、身振りで伝える気持ちがあれば案外通じることを知ることができる、良いワークショップだと思いました。



（右上に続く）

- ろうの方が健聴か、外から見ると全くわからないですね・・・と改めて。
- 伝えることの難しさ、口の開け方で読みとることの難しさを体験し、今後ははっきり話すことを心がけようと思いました。
- 手話はジェスチャーを共通していることが多いので、とにかくあらゆる手段を使って（書く、身振りなど）伝えようとする思いやりが大切だと思いました。
- 普段何気なく使っている名称や動きを、身振りに変更するむずかしさを感じました。

車椅子体験

- 介助用の車いすでも段差の上げ下ろしが大変だったので、電動車いすはいかに人手が要るかを実感しました。
- 母に乗せた事がありますが、乱暴だったかと反省しました。
- 段差や平らでない場所の動かし方、何より周囲に協力を求める声を上げることが大切だと学びました。



言語障害体験

- 舌に手を入れて話す体験初めてでした。もどかしさのほんの少しでも体感できた気がします。
- 何度も聞いているとわかった。しっかり耳をかたむけようと思った。
- 相手の表情を見ることの大切さを知った。
- 足を使って機械を使ってコミュニケーションを取っているのを初めて知りました。
- 一度きいだけではわからなくても、何度もきいてもかまわないということを知りました。



避難所体験が教えてくれたこと

- 障害別の「気づき」が大変勉強になりました。当事者でもできることは手伝いたいという声、また、遠慮してしまいがちということ、少し想像力を働かせれば分かりそうでも、でもこうして聞いてみないとなかなか分からないですね。全区民、全国民が考えるべき内容だと思いました。
- 各地域で本気でとりくまなければならない事だと思います。全ての人が理解をしていかなければ、ならないとも思います。



避難所宿泊体験まとめ

災害の備えに万全はありません。備えるために暮らしているわけではありませんので、そこにはおのずと限界があります。ですから、ひとまず今、できることを。本企画はみんなで素朴に考えてみようというもので、実際の被災地の困難を体現できたとは到底言えませんが、それぞれの地域性の違いもあるため、意味もあると考えて取り組みました。課題を共有することで、新しい気づきと次の工夫につながる機会となったと考えています。